

全日本民医連

第10回共同組織活動交流集会・長崎へ6名参加

全国各地から1560名がつどう



6/21・22に全日本民医連第10回共同組織活動交流集会在長崎市で開催されました。「なくそう核兵器 守ろう平和と人権 今こそ日本の医療と介護の再生を」～いのちの平等めざし、安心して住みつけられるまちづくりを～をテーマに北海道から沖縄まで、1560名がつどいました。第1日目は全体会で現地の歓迎企画で龍踊りが披露されました。田上長崎市長もかけつけ、あいさつの中で「核兵器は本来、人間にはいらぬもの、オバマ米大統領がヒロシマ・ナガサキで核を使用した唯一の保有国としての道義的責任にふれ、

核のない平和で安全な世界を米国が追求していくことを宣言したことで新しいページがはじまった。どう国際世論をつくっていくかが、核廃絶に向けた次のページ。この解決のために力を合わせることができかが求められている。」と述べました。

記念講演は「いのち」と題して、肥田舜太郎先生が講演しました。肥田先生は1945年8月6日に広島で被爆され、直後から被爆者救済の生々しい体験を語られました。医学が未知の原爆病の前に、医師として役に立てなかったことが、その後の人生に大きく影響し、1953年全日本民医連の創立に参加し、患者さんや、看護婦



田上長崎市長のあいさつ



感動を与えた肥田先生の講演

さんから本当に患者さんの役に立つ臨床医に育ててもらったと実例をあげ語りました。戦後63年の自分の人生は民医連と被爆者救済、核兵器廃絶の3つの運動に尽き、この3つの運動は期せずして、人の命に深く関わってきたこと、また民医連の医師として、医学を人間に当てはめる医療ではなく、人間の命を医学に照らし合わせる医療を行ってきた。また、核廃絶のための活動は、被爆医師として当然の義務として、命のある限り、続ける決意を述べられました。

92歳の高齢にも関わらず、その気骨さに参加者に大きな感動を与えたお話でした。

2日目は、8会場で分科会(分散会)が開かれ、日頃の活動を熱心に討論しました。和歌山からも、「仲間ふやし年間目標全地区達成の経験と教訓」をくすみ支部の多彩な活動を紹介しながら演題発表しました。

参加した組合員さんの感想は

- 肥田先生の民医連立ち上げの話は感動した。医者立場から原爆を解明し、今なお、核兵器廃絶に向けがんばっていることに学ばされた。
- 肥田先生の生の話が強烈だった。民医連綱領の具体的な実践の話が聞けた。
- 被爆直後の話はなかなか聞けるものでない。民医連の医師の姿に感動した。



原爆病院前で

「健康とくらし」の配布をご協力頂いている皆様へお願い

いつも「健康とくらし」の配布にご協力頂きありがとうございます。

さて、今回の「健康とくらし」203号の記事にもありますように、昨年の原水爆禁止世界大会は、人類の生存と子どもたちの未来のために「核兵器のない世界を」の新国際署名を呼びかけ、核兵器なくせの運動が世界に広がっています。

オバマ米大統領が「米国は、核兵器国として、そして核兵器を使ったことがある唯一の核兵器国として、行動する道義的責任がある。… 今日、私は核兵器のない世界の平和と安全保障を追求するという米国の約束を、明確に、かつ確信をもって表明する。」と4月に発言する一方で、5月には、北朝鮮が核実験をおこなうなど核兵器廃絶をめぐる世界の動きが大きくなっています。平和を求め、核廃絶への道筋をすすめる最も有効な力は、世論の巨大なうねりをつくり出すことです。

和歌山中央医療生活協同組合は、健康は平和でないと守れないとの考えから、来年5月の核不拡散(NPT)再検討会議(ニューヨーク)にむけて、新国際署名「核兵器のない世界を」1万筆を集めることを目標に、夏の原水爆禁止世界大会への代表派遣や「平和のための戦争展」など核兵器廃絶・平和活動にとりくみます。当面、8月末までに医療生協・民医連全体で5000筆の署名と取り組みに必要な募金を集める目標にとりくみます。

つきましては、署名用紙10枚と募金封筒を同封させていただきますので、「健康とくらし」の配布の際などに、できることから署名と募金にご協力頂ければと思います。よろしく願い申し上げます。

人類の生存と子どもたちの未来のために

核兵器のない世界を

国際署名にご協力を

2010年核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けて

人類の生存と子どもたちの未来のために「核兵器のない世界を」の新国際署名を呼びかけ、核兵器なくせの運動が世界に広がっています。

オバマ米大統領が「米国は、核兵器国として、そして核兵器を使ったことがある唯一の核兵器国として、行動する道義的責任がある。… 今日、私は核兵器のない世界の平和と安全保障を追求するという米国の約束を、明確に、かつ確信をもって表明する。」と4月に発言する一方で、5月には、北朝鮮が核実験をおこなうなど核兵器廃絶をめぐる世界の動きが大きくなっています。平和を求め、核廃絶への道筋をすすめる最も有効な力は、世論の巨大なうねりをつくり出すことです。

和歌山中央医療生活協同組合は、健康は平和でないと守れないとの考えから、来年5月の核不拡散(NPT)再検討会議(ニューヨーク)にむけて、新国際署名「核兵器のない世界を」1万筆を集めることを目標に、夏の原水爆禁止世界大会への代表派遣や「平和のための戦争展」など核兵器廃絶・平和活動にとりくみます。当面、8月末までに医療生協・民医連全体で5000筆の署名と取り組みに必要な募金を集める目標にとりくみます。

つきましては、署名用紙10枚と募金封筒を同封させていただきますので、「健康とくらし」の配布の際などに、できることから署名と募金にご協力頂ければと思います。よろしく願い申し上げます。

和歌山中央医療生活協同組合 和歌山県民医連医療機関連合会